

第2回光市地産地消プラン推進会議 議事録

日 時 令和4年5月30日（月） 15時30分～16時30分

場 所 光市役所3階 大会議室1・2号

出席者 委員 21人（欠席 4人）、事務局 5人、傍聴 1人

1 開会

2 経済部長あいさつ

皆様方には、今後5年間の本市の地産地消推進の指針となる第4次となるプランの策定にご協力を頂きたい。

地産地消を進めることは、近年、重要視されているSDGs（持続可能な開発目標）の達成にも繋がり、また、地産地消の取組により、市内消費を拡大させ、第一次産業の担い手の確保や食を通じた交流といった好循環を生み出すことで、にぎわいのあるまちづくりにも繋がることが期待されている。

この推進会議では、本市の抱える問題や現状を踏まえ、光市ならではの魅力や可能性を活かした取組をご検討いただき、それぞれのお立場から様々な視点でのご意見を頂戴したい。

本プランが「オールひかり」で取り組める魅力あふれるものとなるよう、お力添えをお願い申し上げます。

3 委員及び事務局員紹介

感染予防の観点から、事務局が名簿に沿って委員、事務局員を順に読み上げ紹介

4 議長選出

光市地産地消プラン推進会議設置要綱第4条に基づき、互選としたが意見が無かったため、事務局案を提案。

農事組合法人石城の里河村雅春氏が選出された。

5 議長あいさつ

委員の皆様は第4次光市地産地消プランの策定という任務を背負っている。どうか皆様の活発なるご意見、議論をよろしくお願い申し上げます。

我が国における地産地消の運動は、1980年代から始まったもので、今日では、ポストコロナ、食の安全保障、SDGs等大きな時代の流れがあり、このような世界的な時代情勢を踏まえて、新たな角度、新しい切り口からの地産地消のあり方が問われているのではないかと、このようなことを常に考えている。

どうか第4次光市地産地消プランも、皆様方の英知を結集し、素晴らしいプランが出来上がるようご期待申し上げます。

6 議題

(1) 第4次光市地産地消プランの策定方針について

事務局より資料に基づいて説明

質疑意見等なし

(2) 地産地消アンケートについて

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

【アンケートについて】

●委員

費用面で課題があるかもしれないが、回収率を高めるため、アンケートの回収方法を郵送のみとせず、QRコードを読み取ることで回答できるようにしてはいかがか。

●事務局

費用面については、郵送料を考慮すると、削減できる可能性もある。御意見を踏まえ、回収方法は検討させていただく。

●委員

アンケートの設問は、結果だけでなく、そこに至るまでの理由やアイデアがくみ取れるようなものもあればよい。また、年齢別データを使うと、安全意識や価格の受け止め方等、世代による差異が出て面白いと思う。

手間をかけられるなら、複数人を集めて直接インタビューができると本音や動向を把握できてよい。

● 委員

どのような属性の方が無農薬野菜に関心を持っているのか把握したい。

● 委員

市内小中学生や高校生を対象に調査することはとてもよい。

【地産地消について】

● 委員

山口県民になじみのない商品を店頭に並べる場合は、レシピをつくったり、料理体験をしてもらうことで「買ってみようか」につなげられるので、そのような取組ができればよい。

● 委員

光市の地産地消とは光市内で完結しなければならないのか。また、SNSの活用（市外への情報発信等）は地産地消の障壁となるのか。

● 事務局

県の取組と連携して取り組んでいきたいと考えており、光市内に限らず県内、周南地域も含め地産地消を推進していきたい。

例えば、SNSを通じて遠くから物を取り寄せると、輸送に係る二酸化炭素の排出量が増加してしまう側面があるが、SNSで郷土料理をPRする等、使い方によって地産地消の推進にも活用できると考えられる。

● 委員

漁業は、地産地消の方が、輸送費分安価で販売できるのでよいが、農業の場合はどうなのか委員の方の意見を聞きたい。

加工品を作る際等、山と海で別々に企画しているのが現状だが、一緒に開発していけたらよいのではないかと思う。

地産地消プラン推進会議委員の取組について、認知度が低いいため、SNSで発信することで、地産地消の推進に繋がっていくのではないか。

●委員

地元以外（都市部）への出荷は、それに係る負担やブランド化の取組が課題で取り組んでいないが、都市部に出荷することで高収益となるなら、いずれは目指していくべきと考えている。

地元に販売することで、輸送費が削減でき、より高収益化できるのであれば都市部ではなく、地元での販売でよい。

【普段の活動等について】

●委員

人手不足が課題。これまで出荷に使用する箱を統一する等省力化の取組を実施しているが、次シーズンは規模も縮小して対応せざるを得ない。

管理が追い付かず、小さいイチゴが多く発生してしまったが、里の厨にジャム用として出荷したところ、専用のスペースを設けていただいた。このような取組はうれしいし助かる。

●委員

自分たちで耕した畑や地元で栽培されたものを使ってまさに地産地消で加工品を作っているが、構成員の高齢化が進んでいるため、次世代に繋がっていくように若い世代の参加者を募集している。

7 その他

事務局から今後の予定等について連絡

- ・ 次回の会議は、本会議の意見やアンケート結果を基に作成するプラン骨子をテーマとして、8月から9月頃に開催予定。
- ・ 本日発言できなかったが、意見のある方は、事務局まで連絡していただきたい。

8 閉会